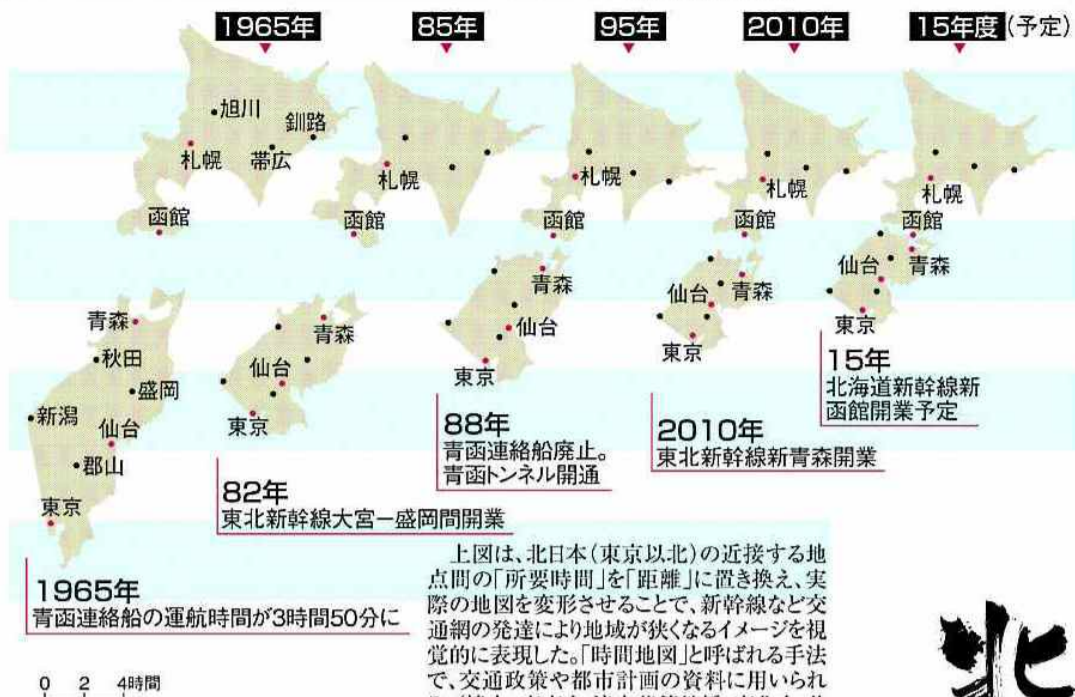


鉄道の発達により変わる「時間軸」



上図は、北日本(東京以北)の近接する地点間の「所要時間」を「距離」に置き換え、実際の地図を变形させることで、新幹線など交通網の発達により地域が狭くなるイメージを視覚的に表現した。「時間地図」と呼ばれる手法で、交通政策や都市計画の資料に用いられる。(協力:東京大 清水英範教授、東北大 井上亮准教授)

北海道・東北考

第1部 きずな再び

2

「わんこそばを食べに来ませんか」。昨年12月、そんな招待状が札幌市内の複数の中学校に届いた。送ったのは岩手県盛

の経済界や自治体はともに、大消費地であり政治経済の中心である首都圏とのつながりを重視し、互いを同じ経済圏として意識することは少なかった。

東北では新幹線が1982年に盛岡、02年に八戸、10年に新青森へと延び、着実に首都圏に接近。北海道の側も「航空便が

中心。新幹線ができれば、より遠くからも来やすくなる」。東北観光推進機構の坂本文男国内事業部長は期待を込める。

仙台に照準

北海道の側も手をこまねいてはいない。3月には函館市が中心となつて、仙台市内で初の道南物産展を開く準備が進む。

「近くて遠い」は昔話

岡市。今月12日から札幌市中央区のさっぽろ東急百貨店で開く盛岡市主催の盛岡物産展に、東日本大震災のために昨年の盛岡への修学旅行をキャンセルした中学校の生徒たちを招いたのだった。

同じ経済圏

物産展には食品や工芸品など36店が出店を予定

多い東京に行く方が早くて安い(道内経済団体幹部)のが実情で、人の行き来もビジネスも、互いの交流は青函圏以外にはあまり広がってこなかった。

そんな「近くて遠い」東北との距離は、新幹線が津軽海峡を越えることで一気に縮まる。

盛岡市は札幌だけでなく、新函館駅開業をにらみ函館市との交流や連携にも着々と手を打つ。6月に盛岡市で開かれる地元出身の歌人石川啄木の没後100年を記念したフォーラムには、啄木にゆかりある函館市からも関係者を招待する予定。両市の間で災害時に備えた防災協定を結ぶ可能性も探っている。

また、東北の関係者が新幹線効果として期待を寄せるものの一つが、東京電力福島第1原発事故の影響で激減した道内からの修学旅行生の誘致だ。

高速で大量輸送できる新幹線は、再び修学旅行を呼び戻す格好のPR材料となる。「東北に来る学校はこれまで道央圏が

2面に続く

3・11を越えて

北海道・東北考 ②

1面から続く

昨年10月、岩手県北部にある新幹線二戸駅前で開かれたイベント。各地域の特産品などを売り出す50店以上の中に、ただ一つ東北以外から参加したブースがあった。新幹線延伸をPRするために現地を訪れた札幌市や函館市の関係者だ。

企画したのは二戸市。発端は札幌市が一昨年春、北海道新幹線の札幌までの全線開業を目指す決議への協力を、二戸を含む東北と道

内の沿線18自治体に持ちかけたことだった。これをきっかけに二戸市が一昨年のイベントに札幌市の関係者を招待。昨年

沿線自治体との連携は大きな課題。市新幹線推進室は「二戸のようなつながりを広げていきたい」と言う。点と点でつながる空路と異なり、沿線自治体を一本の線で結ぶ新幹線。そこには今までにならぬつながりが生まれる可能性がある。

線一本で行き来できるようなになる。復興が落ち着いたら姉妹都市になりたい」と語る。新幹線で沿線連携が県境を越えて活発化した先例はある。昨年3月、全線開業した九州新幹線でつながれた鹿児島県。同10月には山

ネスチャンスが生まれる」。そう語るのは、昨年11月、鹿児島県を視察した函館市の住宅建材製造「佐藤木材工業」の佐藤祐幸会長だ。今年3月ごろ、岩手県南部の北上市に新工場を着工し、そこを拠点に東北でも販路拡大を目指す。新幹線

姉妹都市になりたい

2月には札幌側の招きで二戸の関係者がさっぽろ雪まつりの会場を訪れ、郷土料理「せんべい汁」などをPRした。札幌延伸は決まったものの、20年以上かかることされる工期短縮を国に求めているために、札幌市にとって

たとえば東北新幹線で最大の車両整備の基地がある宮城県利府町。震災直後、北海道新幹線の整備基地を建設中の渡島管内七飯町から支援物資が届いた。これを機に交流を深める機運が生まれ、鈴木勝雄利府町長は「2015年度には新幹

口県と双方の商工会議所同士が友好提携し、また12月には広島県で両県の経済界トップが顔をそろえ観光の連携強化を確認し合った。

は、技術者や営業担当者を頻繁に行き来させるうえで大きな武器となる。佐藤会長は昨年10月、工場の進出準備に合わせて、北上商工会議所を初めて訪問。15年度に両市が新幹線で約2時間で行き来できることをアピールし、新たな関



東京方面からのビジネス客らでごった返すJR仙台駅。北海道までつながることで人の流れはさらに大きくなる

係づくりに意欲を見せた。「やはり首都圏が最優先」ただ、東北の自治体には「として、まだ道内との交流

に目を向ける動きは決して多くない。経済界の中にも「新幹線で人の流れが増えなくても、貨物が増えるわけではない」と、効果に冷ややかな視線があるのも確かだ。新幹線を活用した経済活性化策を検討するため、北海道と東北6県の商工会議所が昨年10月に設置した調査会は、札幌延伸が決まったことを受け、1月中にも次回の会合を開く予定だ。「経済、観光分野はもちろん、北海道と東北が連携すれば、潜在力は無限の可能性を秘めている」。1回目の調査会で、鎌田宏・東北6県商工会議所連合会会長が訴えた可能性を表現できるか。正念場はこれからだ。

3・11を越えて